

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0372700641		
法人名	株式会社いわい		
事業所名	グループホームにここにこだいとう		
所在地	岩手県一関市大東町猿沢字板倉60番地1		
自己評価作成日	平成23年12月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372700641&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372700641&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成24年1月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地元の小学校から運動会や学習発表会へ招待されたり、小学生や中学生が施設へ慰問やボランティアに訪れたりと交流がさかんである。また、地域の方々が防災協力隊を結成し、運営推進会議や防災訓練にも参加してもらい、施設運営に協力頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当事業所は、地域の元診療所の跡地で馴染の深い場所でもあり、1階がデイサービス、2階がグループホームとなっている。居室や共用空間等は、家庭的な温かさが感じられるよう花を飾り、季節感が感じられるようみずき飾りがあったり、水槽には金魚が泳いでいたり、工夫と努力がうかがえる。ここにこプラザ(グループホーム、デイサービス、居宅介護支援)の地域防災協力隊(12名)が昨年結成され、大きな力となっている。介護計画の作成に当たり、ミーティング記録、担当者会議、カンファレンス記録が介護計画に反映されている。職員は利用者の尊厳を傷つけないよう常に笑顔とゆとりを心がけ、支援されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に溶け込んだホームを目指しており、その理念を職員全員で共有するために毎朝唱和し意識付けを行っている。	加盟しているシルバーグループの理念の他にグループホーム独自の理念を掲げ、地域の方々とのコミュニケーションを図りながら、利用者と共に励まし、助け合っていくようケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等に地域の方にも出席してもらっている。また、防災効力隊を結成し避難訓練にも参加してもらっている。小学校の運動会や地域の文化祭にも参加している。	自治会には加入していないが、運営推進会議の委員の自治会長、区長と情報交換をし、近くの改善センターの新年交賀会に参加したり、文化祭には利用者の作品の展示、見学、地区運動会など、地域の交流に努めている。保育園児、小学生の歌、肩もみ等のボランティアを頂き、中学生徒には福祉体験として窓ふきをして頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方が出席して下さるので認知症の症状について説明し、少しでも理解して頂けるようにしている。同法人の居宅のケアマネにも出席してもらい、地域の高齢者の生活に何か協力出来ることはないか話し合う機会を設けた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況報告(行事やレクリエーション)、防災訓練等について報告し意見を頂き、サービスの質の向上を目指している。	運営推進会議の中で、昨年地域防災協力隊が結成されており、防災頭巾の購入等、安心、安全に取り組まれている。遠方のドライブ計画も近くでも良いところがあるとの意見が出され、お寺等へ行き、利用者からも「見たことがある」との声が聞かれており、今後も継続させたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内はもとより、ご家族からの苦情について相談させて頂きアドバイスをもらったり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の委員には大東支所の職員が入っており、実情を把握していただいている。家族からの苦情については、一関市役所の担当者に相談したり、助言を頂いている。震災時には安否確認に来所した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段は施錠していない。身体拘束については運営規程の”その他運営についての重要事項に記載してありエレベーターホールにも掲示してある。	グループホームは2階にあり、玄関に入るとエレベーターで上がる必要がある。常にエレベーターは1階に止めるようにしている。外部研修には積極的に参加し、内部でも報告を兼ね勉強会を実施している。禁句マニュアルが作成されており、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い高齢者虐待防止について職員間で日頃から話し合ったり声掛けについても気になる時はお互いに注意し合っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人等の利用者はいないが、制度について理解していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学は随時行い契約時にも説明し理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報や近況報告、推進会議の議事録を送付し、日常の様子を報告している。	利用者の担当者を決めており、その時の利用者の状態を把握しながら、ホールでのお話であったり、居室や入浴時に思いを伝えられるよう工夫している。家族からは訪問時や電話などで意見、要望の把握に努めている。利用者アンケートを実施して意見も出されている。家族アンケートはこれからである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務ミーティングを開催し社長にも出席して頂き職員の意見や利用者の状況など伝える機会を設けている。特に設備などに関しては利用者の状態の変化に対応するため、実際に手摺りの増設の見積もりや、冷蔵庫や洗濯機等の家電・コピー機の購入等素早く対応してもらっている。	社長も含めた毎月の業務ミーティングでは、備品等は購入して頂き、職員休暇についても改善された。職員の意見から、禁煙を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に応じ、夜勤の回数を決定したり、その月の行事や受診日等を確認したうえで、有休の取得希望にも応じている。また、サービス残業はしないよう職員に声掛けしている。更に、職員それぞれに役割分担し、やりがいを感じてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく職員全員が講習会などに参加できるようにし、質向上に努めている。また個別面談や満足度アンケートも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での講習会などを開催したり他事業所と情報交換を行い連携を取っている。また、合同避難訓練も年2回実施し緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談時には時間の許す限り家族や本人より要望などを聞いている。情報提供票や主治医意見書等からの状態把握に努め、本人を理解し今までの生活を出来るだけ継続する事で安心して暮らして頂けるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から見学してもらい情報交換している。入所後は本人が安心して暮らせるよう出来るだけ家族に来所して頂き安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、関係機関の情報提供票、主治医意見書などから必要な支援を見極めるよう努めている。必要に応じ他のサービスについても説明・案内を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの人生経験や知識などを教えて頂いたりできる事を行って頂く事で「自分はこちらで必要とされている。」ということを実感して頂けるよう努めている。理念にもある”共に笑い助けあい・・・”を実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族との交流を保てるよう状況報告を行い、面会・行事への参加をしてもらえよう呼びかけている家族との外出や外食なども勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同級生と文通をされている利用者には、葉書の購入や投函を手伝う事で、関係の継続を支援している。	利用者の馴染みの人たちの把握は近所の方に聞いたり、通院の際に病院で情報を得たりしている。毛染めをしている方もおり、家族同伴で馴染みの美容院に行っている。婦人会のOBの訪問があったり、馴染みのお寺に行くなど支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から仲間としての関係性や席などを配慮し、関わりを深められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族の相談に応じたり他事業所と連絡調整を行い、支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動や表情からその方の真意をはかり、確認している。それが困難な方は家族からも情報を得るようにしている。	一人ひとりの意向の把握には1対1で、利用者の居室や食事時、入浴時に聞くようになっている。家族からは、訪問時や電話で情報を得ている。問題行動を起こしやすい利用者に対しては職員が気持ちをリセットさせる方法を心得ており、理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自室に制作した手芸や家族の写真等を部屋に飾る事により安定した生活を図っている。情報提供票や関係機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランに沿って利用者様の支援を行うことで、出来ること出来ない事の把握に努めている。		
8	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月毎のカンファレンスと本人や家族、主治医の意見等を取り入れるよう努めている。また、職員全員で話しあい、介護計画の作成を行っている。	担当者会議や、カンファレンス(利用者、家族、ケアマネ、スタッフ)などで個々の記録や申し送り等により介護計画を作成し、のちに家族へ郵便で送付し希望や意見を求めている。利用者の家族が遠方の場合には電話で要望を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報共有の徹底の為、重要事項については申し送りノートで共有している。日々の様子はケアプランに基づきチャートに記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方の方は施設で受診対応している。また、ご本人の意向に沿っておやつ等の嗜好品の買い物にも同行している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小、中学校との交流、地域の店の活用、散歩や行事等を楽しむ事で協働を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望を重視しかかりつけ医を受診している。近くの方は、なるべく家族に付き添って頂いている。	利用者の殆どの方が、かかりつけ医の受診である。専門医と遠方の病院は家族対応としており、隣の診療所の受診は職員が対応している。医師の指示については口頭や書面で報告し、受診記録簿も作成している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の定期訪問で利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。利用者に特変が生じた場合、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には情報提供を行い、入院後は病状を把握できるよう面会や連絡を密にとるようつとめている。早期退院に向けて、主治医や病院関係者と情報交換し、家族との調整も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対応できるよう指針を定め、事業所が対応できる最大のケアに努めている。本人や家族の希望を重視し主治医と連携を取りながら方針を共有し施設で出来る事を行っている。	契約時に看取りの指針について本人、家族に説明をしている。事業所としての対応し得る最大のケアの実施と、職員間の研修会での体験談等を話しながら方針の共有に取り組んでいる。看護師が週1回の来所で医療連携の体制に努め、デイサービスの看護師とも協力が得られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備えて救急法やAEDの講習を受けている。心肺蘇生法のマニュアルを目に付きやすいところに掲示して緊急時に備え、復習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署員の立ち会いのもと、年2回実施している。利用者、家族、職員、防災協力隊、運営推進委員の方々に参加して頂いている。	避難訓練実施後は、消防署員の注意点、反省点を活かして訓練に備えており、安全と事故のないよう職員全員で共有している。備蓄品に反射ストーブ、ローソク等を追加して用意している。防災協力隊のボランティアの受け入れは、保険の関わりがあるので現在検討中である。	夜、暗い時間の2階からの訓練は、適切な判断と対応ができるよう現場で職員自身が体得していくことが大切である。地域防災協力隊が組織されたので今後に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について掲示し、意識できるように努めている。契約時に秘密保持、個人情報保護法遵守についての同意書について説明し同意を得ている。	一人ひとりの人格を尊重するために、入居当時の生活歴を参考にしながら対応に努め、個々の状態に合った声掛けをしていけるよう職員間で共有している。管理者を始め、不適切な言葉があった場合は職員同士で注意し合っている。禁句マニュアルで勉強会を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声掛けし焦らせないように配慮している。意思表示の困難な方は選択肢を設けてご本人が自己決定できるように努めている。(食べ物、衣類、居場所)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣や体調に配慮しながら出来るだけ柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに無関心にならないように、行事に参加される際は髪型を変えてみたり、化粧をしたりしておしゃれを楽しんで頂いている。定期的に馴染みの美容院に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食材の下ごしらえをしたり食器洗いや食器拭き等出来る事は一緒に行い、無理のない支援を行っている。	楽しい食事になるよう職員は交替制で献立を作成し利用者からの好みを聞きながら、利用者も交替で一緒に買い物に出かけている。冬期間は職員のみ買い物としている。外食には前もってチラシを作成し、2~3品の中から選ぶなど工夫されている。利用者の畑をお借りして収穫したものが食卓にのり、食事の準備には男性も入り、出来ることを分担している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と3時におやつ時間を設けている。随時水分摂取を行い、介護観察記録に1日の総水分摂取量を記入し、利用者個々の水分量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き等の声掛けを行い職員が見守りや、必要時介助を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの残存能力や状態を考慮しながら出来るだけトイレでの排泄を促している。トイレの訴えのない利用者にも時間を見計らって声掛け誘導を行っている。	基本的にはトイレでの排泄を目標に、状態に合わせた声掛けや誘導の支援をしている。失禁時の対応についても、他の利用者に悟られないようにトイレや居室で交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質を多く含む食品を取り入れる等、便秘予防に努めている。なるべく自然排泄できるよう心掛けているが、必要時には下剤や浣腸等で対応している。(浣腸は看護師が対応)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調を考慮し、入浴を行っている。拒否があれば無理せず、他の方と交代したり時間をずらして行っている。	入浴は週2~3回、午後からとしている。その日の入浴の利用者から順番を聞きながら清潔保持に努めている。個々のバイタルの基準はかかりつけ医からの数値と、看護師のアドバイスを受けながら実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を検討し気持ちよく休んで頂く様支援している。また、必要時眠剤を服用している方も居る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲や飲み忘れ等がないように服薬時には必ず声に出して確認を行っている。錠剤が服薬困難な方は主治医と相談し粉状にして服薬されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞や本を読む、ドラマを見る、嗜好品を買う、洗濯を畳む等、1人1人の力を活かした役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候、状況に応じ散歩やドライブ、買い物等支援している。また、墓参りや遠方の家族から協力を得て外泊や外出の支援をしている。	その日その日の会話の中から、利用者の思いをくみ取るように心がけている。例えば利用者から「天気がいいねえ・・・」の会話から「散歩に行きましょうか？」など、個々に工夫しながら取り組んでいる。亡くなられた奥さんの墓参り、外泊したり、家族と外食や兄弟のところへ行くなどさまざまな支援がなされている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームにこにこひがしやま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方の財布を事務所で職員が管理している。自分で現金を持たれている方もいる。買い物に行ったら際は財布を渡し、本人が支払いを出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や必要に応じ、電話や手紙を書いたりして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールやエレベーター前に花等を飾り、季節を感じて頂けるようつとめている。季節ごとに装飾も行なっている。トイレや床にゴミや汚れがみられたら都度掃除して気持ちよく生活して頂けるよう努めている。温湿度計を設置しこまめに温度や湿度を管理し換気を行っている。	普段皆さんはホールにおり、廊下には利用者の作品やみずき団子が飾られている。畳の小上がりには炬燵があり、自由に休むことができる。2階にあるため、眺めは格別である。空気の入替えは毎日2回行っている。水槽に大きな金魚が泳いでいる姿は心を和ませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の2か所にソファ、玄関にベンチ、廊下にもソファを置き、好みの場所で過ごして頂けるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるよう、出来る限り本人の好みに任せている。また、家族の写真や手芸作品なども飾っている。	備え付けは機能に合わせたベット、クローゼットと引き出しが付いた家具やパネルヒーターがあり、個々には家族の写真や、ミニテーブル、椅子、衣装ケース等があり、部屋の採光もよく整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況や状態に合わせて環境整備に努めている。混乱や失敗が生じた時には、職員が話し合い、迷いや不安を取り除いて安全かつ安心して自立した生活が営めるよう工夫している。(名札や赤いテープでの道しるべなど)		